



方面總監統率方針
任務完遂

発行所
〒664-0012 兵庫県伊丹市緑ヶ丘7-1-1
陸上自衛隊 中部方面總監部広報室
電話 072(782)0001

方面隊災害対処演習 (南海レスキュー01)

東海地震を想定し、愛知・三重県を主体に大規模災害対処演習

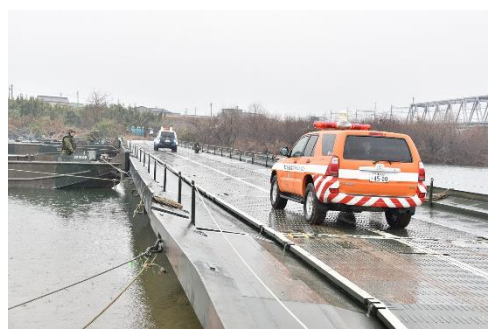
中部方面隊(総監 野澤陸将)は、2月21日(金)から23日(日)までの間、方面隊災害対処演習(南海レスキュー01)を実施した。今年度の演習においては、

大規模震災時における方面隊の災害対応能力向上を図ることを目的とし、主として愛知県及び三重県で演練した。



統合幕僚長視察受け(愛知県小牧市 航空自衛隊小牧基地)

参加部隊	人員	車両・艦艇	航空機
陸上自衛隊	約2,000名	約400両	12機
海上自衛隊	約450名	1隻	2機
航空自衛隊	約110名		7機
在日米軍	約30名		1機



応急橋梁架設(三重県津市 雲出川)



孤立者救助(愛知県弥富市 木曽川グラウンド)



調整会議(愛知県名古屋市 県対策本部)



洋上SCU 護衛艦「いずも」(三河港蒲郡地区)
※Staging Care Unit: 航空搬送拠点臨時医療施設

日米共同統合防災訓練の同時実施

方面隊災害対処演習(南海レスキュー01)と同時に令和元年度日米共同統合防災訓練(01TREX)も実施し、南海トラフ地震発生時での在日米軍との連携要領を実動により検証した。
本訓練により、災害時における自衛隊、在日米軍、関係省庁、関係地方公共団体等のニーズに応じた各種支援要領の具体化が図られた。



米空軍C-130J輸送機による物資輸送(愛知県小牧市 航空自衛隊小牧基地)

航空自衛隊と連携、方面隊の対空作戦遂行能力を向上

方面隊対空戦闘訓練

第8高射特科群

金沢駐屯地
空自小松・入間基地



部隊展開状況 (空自小松基地)

第8高射特科群(群長 押川1佐)は、2月10日(月)から15日(土)までの間、金沢駐屯地及び航空自衛隊小松・入間基地において、方面隊対空戦闘訓練を実施した。本訓練は、方面隊

の対空作戦遂行能力の向上を図ることを目的として、第8高射特科群と各師・旅団の高射特科部隊と航空自衛隊との協同戦闘要領を演練した。各部隊は、それぞれ所望の成果を得て訓練を終了した。



幕僚副長(防衛)訓練実視(空自小松基地)



編成完結式(空自小松基地)

方面隊統制総合戦闘射撃

あいは野演習場

中部方面隊(総監 野澤陸将)は、1月4日(土)から2月15日(土)までの間、方面隊統制総合戦闘射撃をあいば野演習場で実施した。この訓練は、増強普通科中隊各級指揮官の射撃指揮及び諸職種間の火力調整要領を演練して火力発揮能力の向上を目的として実施した。第3師団(師団長 梶原陸将)、第10師団(師団長 鈴木陸将)、第13旅団(旅団長 山根将補)、第14旅団(旅団長 藤岡将補)及び中部方面混成団(団長 芝1佐)は、それぞれの期間、増強普通科中隊による攻撃・防御等の実地的な戦術行動の中における部隊射撃訓練を行い、所望の訓練度を向上させた。



1月4日(土)～1月12日(日) (第14旅団)

諸職種間の火力発揮能力を向上



1月12日(日)～1月19日(日) (第13旅団)



1月19日(日)～1月26日(日) (第3師団)



1月26日(日)～2月1日(土) (第10師団)



2月2日(日)～2月8日(土) (中部方面混成団)

自治体防災等担当者との 情報・意見交換会

中部方面隊（総監 野澤陸将）は、2月6日（木）伊丹駐屯地において、方面区内の自治体に勤務する防災等担当者との情報・意見交換会を実施した。

1号、野外入浴セット等の装備品及び土のうの作成要領を研修いただいた。今回の情報・意見交換会を通じ、各地区防災担当者等との相互連携をより一層深めることができた。

本会は、国民保護・災害派遣における自治体と自衛隊との連携上の課題を共有するとともに、今後の業務遂行の資を得る目的で実施された。

実習では、災害や事故の時に役立つ知識のひとつとして、ツナ缶を利用した簡易ランプの作成等を実際に体験していただいた。また、装備品展示では、自衛隊の保有する野外炊具



総監挨拶



装備品展示（野外入浴セット2型）



体験実習（ツナ缶を利用した簡易ランプの作成）

総監部隊視察

中部方面総監（野澤陸将）は、自衛隊三重・山口地方協力本部、久居駐屯地（第33普通科連隊、久居駐屯地業務隊）、山口駐屯地（第17普通科連隊、山口駐屯地業務隊）、防府分屯地（第13飛行隊）及びむつみ演習場の現況を確認し、統率方針及び要望事項を周知した。



献花（久居駐屯地）



巡閲（山口駐屯地）



懇談（自衛隊三重地方協力本部）



懇談（自衛隊山口地方協力本部）



巡視（防府分屯地）

阪神・淡路大震災25年祈念特別演奏会

中部方面音楽隊



中部方面音楽隊の演奏

中部方面音楽隊（隊長 柴田3佐）は、1月26日（日）神戸文化ホールにおいて、中部方面音楽隊後援会が主催する「阪神・淡路大震災25年祈念特別演奏会」を支援した。中部方面音楽隊は、大震災をモチーフとした曲目等の演奏により、震災の犠牲となられた方々を御遺族及び自治体関係者と追悼するとともに、神戸の更なる発展の機運を後押しした。

神戸文化ホール

第14旅団

メディアトレーニング

中部方面隊（総監 野澤陸将）は、2月14日（金）第14旅団（旅団長 藤岡将補）に対し、メディアトレーニングを実施した。本トレーニングは、部隊に重大な影響を及ぼす突発事案が発生した想定で実施した。



第14旅団長による模擬記者会見
長以下旅団司令部一
体となつて本訓練に
臨み、事故の対処要
領を演練した。
専門業者（電通）
による実際の報道
対応と訓練終了後速
やかに行われた講義
により、第14旅団は
事故の初動における
幕僚活動の練度向上
及び各種教訓を得る
ことができた。

通信 ぽみあふ

第382施設中隊

(連載・第39回)

チューリップの田園風景が広がる富山県砺波市に位置する富山駐屯地は、富山県自衛隊家族会と連携して県全域の家族支援を担任し、家族支援施策に取り組んでいます。

当駐屯地は、各種行事や年2回の部隊家族間コミュニケーションの場を活用して、家族会と隊員・家族との連携を深めています。家族会女性部の皆様には、いつも快く多くの方々に参加して下さい。ため隊員・家族と段々と顔見知りになっていきます。

特に子供のいる家族は、子育ての相談や、時には人生の先輩としてのアドバイスをいただいたり、と、小規模駐屯地ならではの心温まる関係を築いています。

また、昨年度から家族会会長は、富山駐屯地協会の常任理事にも就任され、「県外隊員の家族支援も積極的にやっていきたい」との有難いお言葉をいただきました。

駐屯地は、今後、家族会との実動安否確認訓練等を通じて、本施策の実効性を向上させるとともに、協力会とも連携を図り、交流行事を継続しつつ、更なる家族支援施策の充実を図る所存です。



駐屯地司令から家族会会長へ「飛鳥」手交



駐屯地年忘れ行事「家族会会長と女性部の皆さん」

CSMの提言



第10特科連隊
第2大隊
(豊川駐屯地)
最先任上級曹長
陸曹長
雫野 英吾
(きじの えいご)

「十・十・十の法則」

第10特科連隊第2大隊の第6代最先任上級曹長に上番し、間もなく三年が経とうとしています。この間、「十・十・十の法則」について心掛けてまいりました。

「十・十・十の法則」とは、帝国ホテルの元社長、藤居寛さんが語られた名言です。ホテルでは、ドアボーイがお客様をお迎えし、それぞれの持ち場のスタッフが連携を取りながら、お客様が心地よく過ごせるようなおもてなしをし、最後にまたドアボーイが見送りをすると、一連の流れがあります。この過程で何処か一つでもミスがあれば、他のところでどんなに素晴らしいサービスを提供しても、すべてが台無しになってしまいます。このことを藤居さんは説明しています。その中で、信用を築くには十年かかる。しかし、信用を失うのはたった十秒、失った信用を取り戻すには十年の月日が必要だと言っています。これが「十・十・十の法則」です。これは、サービス業だけでなく、自衛隊でも当てはまる法則と考えます。

例えば、災害派遣終了後に帰隊する際、民間車両と事故を起こしてしまったりしたら、活動間の成果が「無」になるだけでなく、信頼を取り戻すのに何倍もの成果を出さなければなりません。信頼を築くのは大変だけれども、壊すのは一瞬です。そして、一度壊れた信頼関係を取り戻すには、また長い年月がかかります。そのため、いつでも、どのような仕事でも、最高のパフォーマンスをしようという気持ちで取り組むことが大切になると思います。そのことを肝に銘じて、これからも仕事に取り組みしていきたいと思えます。

地本のチカラ

(連載第17回：山口地本)

自衛隊山口地方協力本部(本部長 川名1空佐)は、令和元年11月17日(日)山口県光市で行われた「ひかりふるさとまつり」において、自衛隊の一端について紹介してきました。ふるさとまつり当日は、天候にも恵まれ、21,000人に及ぶ多くの来場者で賑わいを見せました。

自衛隊広報ブースでは、車両展示(高機動車)を始め、ミニ制服試着及び戦闘糧食の展示コーナーを設けて広報を実施しました。日頃、なかなか目にする事のない自衛隊車両が展示車両へ乗車し、車両の仕様について大いに関心を示されていました。

特に好評であったのが、ミニ制服試着コーナーです。ご家族で楽しそうに制服を選び、制服を着た子供達の姿を撮影するなどして、「年賀状にしよう」という声もあり、とても喜ばれていました。また、戦闘用糧食の展示コーナーでは、「メニューの多さに驚く来場者もいました。『これはどんな味?』『おいしいの?』といった質問も多かったです。』

募集相談コーナーでは、自衛官の福利厚生や退職後の就職先などについての質問もいただき、広報官より丁寧に説明を行いました。自衛隊山口地方協力本部は、これからも各種イベントに積極的に参加し、自衛隊を広報していくとともに、地域の方々の理解と信頼を得られるよう活動していく所存であります。



ミニ制服を試着



17式牛型広報官の牛山さんと記念撮影